

## 耳下腺腫瘍とは

耳下腺は、耳の前から下にある唾液を作る大きな腺で、口の中のうるおいや食べ物の消化を助ける重要な役割があります。

この耳下腺にできるしこりや腫れを耳下腺腫瘍と呼びます。

### 【症状】

- 耳の下やあごの近くのしこり
- 顔のしびれや痛み
- 唾液の分泌異常
- 耳たぶの持ち上がりや、顔の表情の変化

### 良性腫瘍

全体の約80～90%で、代表的なもの多形腺腫やワルチン腫瘍と言い、痛みはほとんどなく、ゆっくり大きくなることが多いです。

### 悪性腫瘍

まれですが、耳下腺がんなどがあります。多形腺腫を放置すると多形腺腫由来癌となる可能性もあります。

一般的に進行が早く、周囲の組織に広がりやすい場合があります。

## 検査

### ● 触診

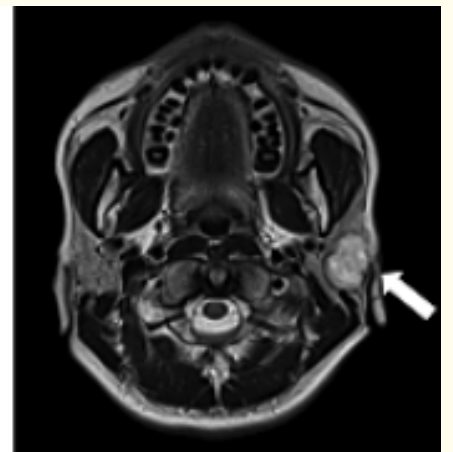
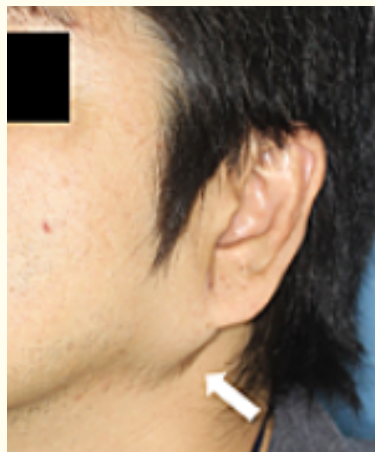
腫れやしこりの大きさ、硬さ、動きや顔の筋肉の動きを確認

### ● 画像検査

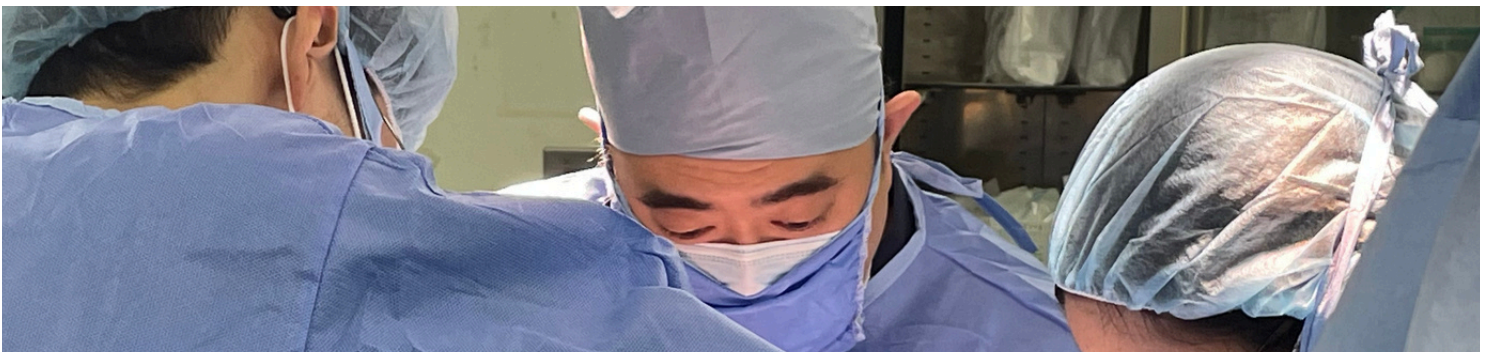
- 超音波検査：しこりの位置や大きさ、内部の状態を確認
- CT・MRI検査：腫瘍の位置や周囲組織との関係を立体的に把握

### ● 穿刺吸引細胞診（FNA）

細い針で腫瘍の一部を取り、顕微鏡で調べて良性か悪性かを判断



引用：一般社団法人 日本頭蓋顎顔面外科学会



## 治療

### 良性腫瘍

良性腫瘍は命に関わることは少ないですが、大きくなる・再発する可能性・悪性化のリスクがあるため、多くの場合で手術が推奨されます。

#### ●浅葉/深葉切除術（部分切除）

耳下腺の表面にできた腫瘍を、周囲の健康な組織と一緒に取り除きます。顔の表情に関わる「顔面神経」を守りながら、安全に手術を行います。

#### ●全摘出術

腫瘍が深い場所にある場合や再発した場合に行います。手術中は顔面神経の位置を確認しながら慎重に切除します。

### 悪性腫瘍

耳下腺がんは進行すると周囲やリンパ節に広がることもあるため、積極的な治療が必要です。

主な治療は手術で、腫瘍と周囲組織を切除し、必要に応じてリンパ節も取り除きます。顔面神経はできるだけ温存しますが、合併切除を行うことも少なくありません。

放射線療法や化学療法は、手術後の補助や手術が難しい場合に行われます。但し、一般的に効果は乏しいとされています。

分子標的療法や免疫療法も研究段階で使われていますが、保険適用外となっております。

早期発見・適切な治療で、予後の改善が期待できます。

